

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：伊勢型紙の製作技術に関する調査（伊勢型紙技術保存会）
 2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（新型コロナウイルス禍により延期）
 - イ) 平家：復元曲の実演記録を作成（新型コロナウイルス感染拡大により延期）
 - ウ) 宮園節：伝承曲の実演記録を作成（宮園千碌氏ほかによる古典曲2曲）
 - エ) 常磐津節：伝承曲の実演記録を作成（常磐津兼太夫氏、常磐津文字兵衛氏ほかによる古典曲1曲）
 - オ) 踊り地（常磐津節）の実演記録を作成（常磐津兼太夫氏、常磐津文字兵衛氏、堅田喜代氏ほかによる復元曲2曲）
 3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 第14回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」（東京文化財研究所、2021（令和3）年3月20日収録、4月末記録映像配信、6月末報告書刊行・ウェブ公開予定）
 - イ) 無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」（東京文化財研究所、2020（令和2）年9月25日）



第14回公開学術講座収録の様子



フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」の様子

- 論文**・前原恵美：「常磐津節《子宝三番叟》の音楽分析」『桐朋学園大学研究紀要』2020年第46集 pp.1-17 20.10
- 報告**・前原恵美：「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響—調査研究とその課題—」『無形文化遺産研究報告』15 pp.5-11
- ・前原恵美・橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告4」『無形文化遺産報告』15 pp.77-87
- 刊行物**・パンフレット2冊「日本の芸能を支える技」（VI三味線、VII箏） VI 20.12、VII 21.3
- ・無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題 21.3
- ・無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」報告書
- ・『及川尊雄収集 紙媒体資料目録』 21.3

研究組織 ○前原恵美、久保田裕道、石村智、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、飯島満(特任研究員)、橋本かおる(客員研究員)

第14回無形文化遺産部公開学術講座（M01の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「日本の伝統的な管楽器と竹材」を2021（令和3）年3月20日に開催した。本講座は、日本の伝統的な管楽器（箏篋、龍笛、笙、能管、篠笛、尺八等）の材料である竹材が抱える課題を、竹の生産・販売者、楽器製作者、演奏家の共通課題として整理することを目的とし、分野を横断した研究者による成果報告と、演奏家による試演を行った。

日時：2021（令和3）年3月20日（木） 13：00～17：00

会場：東京文化財研究所 セミナー室、地下ロビー

主催：東京文化財研究所

参加者：本講座は新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて無観客収録とした。今後、記録映像を当研究所ホームページより配信、別途報告書を刊行・同ホームページ上で公開予定。

内容：第一部

【研究成果報告】

小峰幸夫（東京文化財研究所）「竹材の虫害についての報告」

犬塚将英（東京文化財研究所）「煤竹と白竹の基本的な物性の違い」

倉島玲央（東京文化財研究所）「白竹の一次加工についての報告」

前原恵美（東京文化財研究所）「様々な竹材、代替材の使用感についての報告」

亀川徹（東京藝術大学）「様々な竹材、代替材の音響測定についての報告」

【総括】「竹で拓がる、竹で深まる」

司会：前原恵美（東京文化財研究所）

亀川徹（東京藝術大学）

小峰幸夫（東京文化財研究所）

倉島玲央（東京文化財研究所）



第二部 実演—伝統的な竹の管楽器いろいろ

中村仁美 箏篋（煤竹古管／煤竹新管）：《萬歳楽》、《五常楽》、《双調調子》より

瀨瀬拓也 龍笛（煤竹／谷竹／花梨／プラスチック管）：典型的なフレーズ、《春鶯囀》より（笙との合奏）

八槻純子 笙（煤竹の新管／プラスチック管）：立ち上がり、《春鶯囀》より（龍笛との合奏）

松田弘之 能管（煤竹古管／煤竹新管）：《平調音取》、《千歳之舞》より

善養寺恵介 尺八（白竹／メタル尺八）：《無住心曲》

福原徹 篠笛（白竹／煤竹）：長唄《明の鐘》

能管（プラスチック管／煤竹）：長唄《小鍛冶》のセリより

研究資料データベース(④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、20件のデータベース、10万件余りのデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。
www.tobunken.go.jp/materials/

無形文化遺産部

インターネット公開「国の選定保存技術 邦楽器原系製造の記録〈短編〉」(①ム01の一部として実施)

国の選定保存技術である「邦楽器原系製造」は、邦楽器の絹糸弦に用いられる特殊な原糸を繰糸する技術である。無形文化遺産部では、この技術を保持団体・木之本町邦楽器原系製造保存会(会長・佃三恵子)の協力を得て2020(令和2)年7月に記録撮影、〈長編〉と〈短編〉に編集し、〈短編〉を2021(令和3)年2月より公開している。

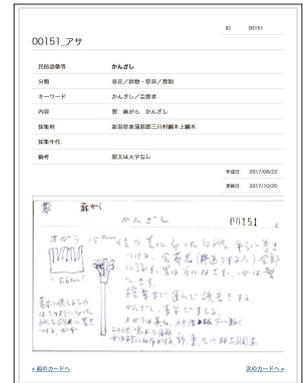


木之本町邦楽器原系製造保存会の繰糸技術

無形文化遺産部

「齋藤たま 民俗調査カード集成」(①ム02の一部として実施)

民俗学者 齋藤たま氏(1936~2017)が作成した調査カードのアーカイブ。カードの内容は植物、動物、まじない、遊び、言葉などに関わる民俗事例を調査収集・整理したもので、総数約4.7万枚。2017(平成29)年に東文研に寄託された。カード内容の概要、キーワード、スキャン画像などが検索できるアーカイブを2021(令和3)年2月に開設。2021年3月末時点で約8,079件を公開、毎月更新予定。



齋藤たま民俗調査カード集成

無形文化遺産部

インターネット公開「箕のかたち 資料集成」(①ム02の一部として実施)

2020年(令和2)年12月~1月にかけて開催した「箕のかたち—自然と生きる日本のわざ」展にあわせて開設したサイト。民具の「箕」に関する映像等の収集・公開を目的とし、各地の箕に関する14件の映像を公開(2021(令和3)年3月末時点。うち1件は公開期間終了)。14件のうち7件は東文研で制作した映像、7件は既刊の映像で公開許可を得たもの。



箕のかたち 資料集成